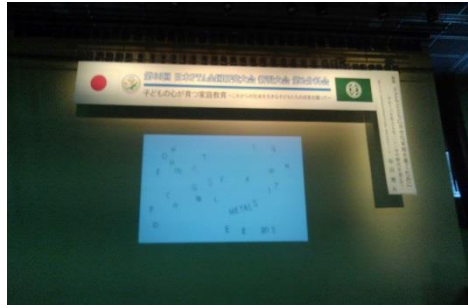




<会場入り口>



<会場風景>

| | |
|----------|---|
| 会 場 | 燕三条地場産業振興センター |
| 研究課題 | 子供の心が育つ家庭教育 ～これからの社会を生きる子供たちの成長を願って～ |
| 基調講演 | 中山 理氏 麗澤大学学長 学校教育研究科道德教育専攻教授 道德科学センター長 子どもと共に幸せな家庭を築くために ～グローバル化と人生 100 年の時代を迎えて～ |
| 実践発表 | 大小原 利信氏 (日本ゲートキーパー協会理事長) 「子供の自信と信頼を育む、味方になりきるコミュニケーション」 齋藤 一子氏 (新潟県親守詩大会実行委員) 「言葉をつなぐ 心をつなぐ 親守詩」の取り組み |
| コーディネーター | 小泉 浩彰氏 (新潟県燕市教育員会学校教育統括指導主事) |
| パネリスト | 青木 章子氏 (大泉町母子保健推進協議会会長、群馬県教育委員会委員) 関崎 智弥氏 (元小学校教員、教育カウンセラー) 濱部 威一郎氏 (文部科学省生涯学習政策局家庭教育支援室 室長補佐) 齊藤 望氏 (元小学校教員、教育カウンセラー) |

歓迎アトラクションでは、吉田中学校カラーガード部による演技が行われました。子供たちの一生懸命な姿に歓迎の気持ちが伝わってきました。

中山理氏による基調講演会ではこれからの社会変化（AI 化、少子化、高齢化など今までの常識が通用しない大きな変化）の中で不確実な将来を幸せに生きるためには子供たちの好奇心を育て、自分が何者かというアイデンティティを持たせることが重要であることを学びました。また、個人の幸福とは物と心のバランスにあり、幸福度を決める要因は自分の能力が発揮できて、それが他人のためになることである。子供は親の言動を通して自分とは何か？社会とは何かを学び、その通り生きていく。子供たちの人格にインパクトを与える最強の道具はあなた自身の人格であるとの解説に感銘を受けました。自らのグローバルな経験をもとに、教師として親として諸問題を解決する手法を大変わかりやすく説明していただき、自身の成長に繋がったと心から思います。

実践発表として大小原利信氏の日本ゲートキーパー協会の活動では子供の自信と信頼を育む為の気持ちの理解の仕方、味方になりきるコミュニケーションツールとして味方メッセージ①OK メッセージ②アイメッセージ③ハートメッセージについて学びました。引き続き齋藤一子氏の親守詩の取り組みでは普段親子同士で恥ずかしくてなかなか伝えられない感謝の気持ちや思いを親守詩により心をつなぐ活動ということで、石川県の三行詩との共通点も感じながら素晴らしい活動だなと感心しました。実際に親守詩コンクールで入賞された親子2組の紹介もあり、素敵な親守詩を聞かせてもらいました。親守詩の考案者である高橋史郎氏の「しっかり抱いて、下に下ろして歩かせる」という言葉が印象に残りました。

パネルディスカッションでは様々な角度から意見を伺え、親が人生に頑張っている、楽しんでいる姿を見せる事の大切さ、完璧な親も子もおらず、欠点があっても大事なものはベストを尽くすこと、損得を抜きにして愛を与え続け、それにより自分の魂を磨くことに繋がられる。

今回の講演、実践発表から親として自分自身が子と共に成長できることの素晴らしさを学ぶことが出来ました。